



第3 サンシャインビラ

新型コロナウイルス感染症について

2021年1月25日（月）



コロナウイルス発生経緯

- 2020年11月23日 介護職員 1名より
新型コロナウイルス陽性確認
- 最後に発症を確認したのは12月8日
- 収束は2021年1月9日
- 利用者様15名、職員5名 計20名が感染。

感染が拡大した要因と対応策

1.入浴介助

⇒介助中はフェイスシールド、マスク、ガウンを使用。

2.休憩中

⇒休憩室を分け、密にならないようにする。休憩中もマスク使用。共有のお菓子も注意

3.食事席

⇒利用者様が対面に座らないように配置。食事席の間にビニールシートを設置。

感染が拡大した要因と対応策

4. ガウンテクニック

⇒ガウン、手袋の装着・脱着方法、手指消毒の指導。
全職員周知することが困難。

5. ゾーニング

⇒当施設でもゾーニングを行っていたが、
今回ご指導いただけただけで、ゾーニングを見直し、
当施設に適したゾーニングを構築することができた。

行政との関わり

施設長 篠崎 哲一

- 保健所との関わり
- 日の出町との関わり
- 東京都との関わり
- ホームページ掲載や関係機関への連絡

保健所との関わり

1. 職員の陽性確認後、保健所より施設に連絡が入る。
その際、陽性職員の発症日2日前からの行動確認、施設内の
凶面を用意するよう指示あり。
⇒濃厚接触者の判断、凶面をもとにゾーニング確認・指導
2. 体調不良者、陽性者、受診、入院、退院等の調整連絡
⇒電話、メールにて連絡を取り合いました。それぞれの
対応については保健所が指導してくださったので、
指示に従って行動を行い、特に困ったことはなかった。

保健所との関わり

3. ケアカンファレンス

⇒西多摩保健所が主体となり、西多摩保健所や
公立阿伎留医療センター、あきる台病院、日の出町と
共に情報共有、今後の対応など検討させていただきました。

4. ゾーニング・ガウンテクニク指導

⇒呉看護師、西多摩保健所に指導をいただきました。



日の出町との関わり

1. 日の出町いきいき健康課の方達と
「コロナ対策チーム」というグループLINEを開設。
これにより連絡がとりやすくなりました。
2. 必要物品の手配（町・東京都）
3. ガウンテクニック指導
4. 事故報告提出（利用者様の保険者にも）

日の出町との関わり

5. コロナの発生状況報告

(陽性になった利用者様の保険者にも連絡)

6. ゴミの捨て方 (感染性廃棄物)

※町に感染性廃棄物について問い合わせると、
感染性廃棄物の対象期間は、罹患者発生後から、
ゾーニング終了までの期間のゴミであると確認する。

7. 風評被害に関するバックアップ



東京都との関わり

1. 東京都 福祉保健局 高齢社会対策部 施設支援課
へコロナの発生状況を電話やメールにて報告。

2. 必要物品要請

(今回は町が手配をしてくださいました)

3. 補助金関係

ホームページ掲載や関係機関への連絡

1. ホームページに掲載する内容に関しては、西多摩保健所及び日の出町に内容確認していただいた後に掲載しました。
2. 関係機関への連絡は、秋川ブロックの特養には「東社協 高齢担当」、居宅には「あきる野市介護事業者連絡協議会」にお願いし、当施設のホームページに記載した第2報をFAXしていただきました。



稼働率と経費について

事務長 小澤 俊太郎



稼働率

特 養

2019年	2020年	差額
98.7%	84.4%	-14.3%

短 期

2019年	2020年	差額
74.2%	40.0%	-34.2%

経費(2020/11/23~2021/1/9)

① 消耗品等

2019年	2020年	
58万円	200万円	3倍強増加

感染性廃棄物処理代



蓋つきゴミ箱



アルコール



使い捨て食器



ガウン

経費

② 寄付物品およびPCR検査

寄付物品・・・140万円

(フェイスシールド、手袋、マスク、アルコール、防護服)

PCR検査・・・1,108万円

(一人当たり4万円で算出)

経費合計・・・1,448万円

補助金の活用

- ▶ 緊急包括支援事業
- ▶ 介護サービス継続支援事業
- ▶ 新型コロナウイルス感染症対策強化事業

生活相談員より

新型コロナウイルスの対応を経験した施設の生活相談員が、感じたこと、思ったことを皆さんにお伝えします。

生活相談員 中嶋 弘美

* ご家族様への連絡について

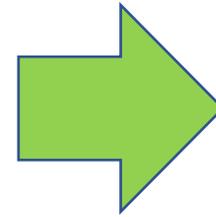
・PCR検査実施の連絡

施設の状況をどこまで話す？

家族の不安を余計に仰ぐこと
になるのではないかな？

・PCR陽性の連絡

...陽性だったのか...というご家
族様の声



* いずれも言葉を選
ぶことの難し
さ...言葉の重み
を感じた...

* 保険者への連絡について

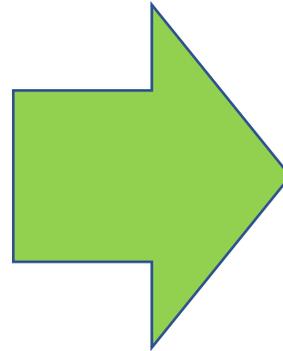
- 新型コロナウイルス陽性の電話連絡



* 事故報告書と
事故処理報告書の提出



提出が遅れた！！



なぜ対応が遅れた
のか？

- ・感染拡大予防や新規感染者への対応に追われていた...
- ・言い回しの問題...言葉の選び方、そして**言葉の重み**...
- ・事故報告書の書き方...どのように表現をしたら良いのか...
- ・報告書の枚数が一人当たり報告書が**4枚**とても大変だった。**事故処理報告書だけにならないものか...書式を統一にできないか...**

* ショートステイ受け入れ中止について

- 事業所への連絡
施設の状況説明
受け入れ中止の宣言...

年末年始の受け入れ...何か
月も前から予約してくれて
いたのに...

- ご家族様への連絡
施設の状況説明
受け入れ中止の宣言

ご家族様
が当施設
のショート
を選んで
くれた
のに

致し方ないのだけれど、申し
訳ない気持ち...そして心配し
たこと...

- 年末年始の予約だったため、
再度別の施設の予約は困難
極まりなく、大変な思いを
させてしまった...
- また当施設を利用していた
だけかな...

* 困ったこと、そして良かったこと

・困ったこと

入院の際の延命希望...ご家族へどのように話をするべき？

私たちが命の話をどこまで話したらよいのか？

・良かったと感じたこと

ご家族様の理解が案外スムーズだった。**ご家族様との関係性が良好に構築されていた**と感じた。

・まとめ

関係性の構築、そのうえで成り立ったと思われる、ご家族様の理解、伝え方の難しさ

...

関わり方や言葉の選択、言葉の重みを強く感じた。



医務

看護リーダー 久保山 昭

改善は必要であるが良かった点

- ・ **早期に隔離を行ったこと**

施設内の会議で新型コロナが施設に入ってきたことを想定し対策を行い、早期に隔離を施行できた。

- ・ **手指消毒を携帯させていた**

一人一つを必ず携帯するよう促し、一処置一手洗いの注意喚起を行ってきた。

改善が必要であった点

- ・ガウンテクニックを標準化するのに時間がかかった

年2度の勉強会は行っていたが、どれくらい周知出来ているか等の評価が足りなかった。

- ・清潔、不潔の認識が不十分であった

意識することが大切であるがなかなか意識づけができなかったこと。これからの勉強会の課題。

改善が必要であった点

- ・ 事前に取り決めていたことの周知が至らなかった

なかなか上手く報告事項が伝達できないケースがみられ、伝達経路の整備が未熟であったこと。

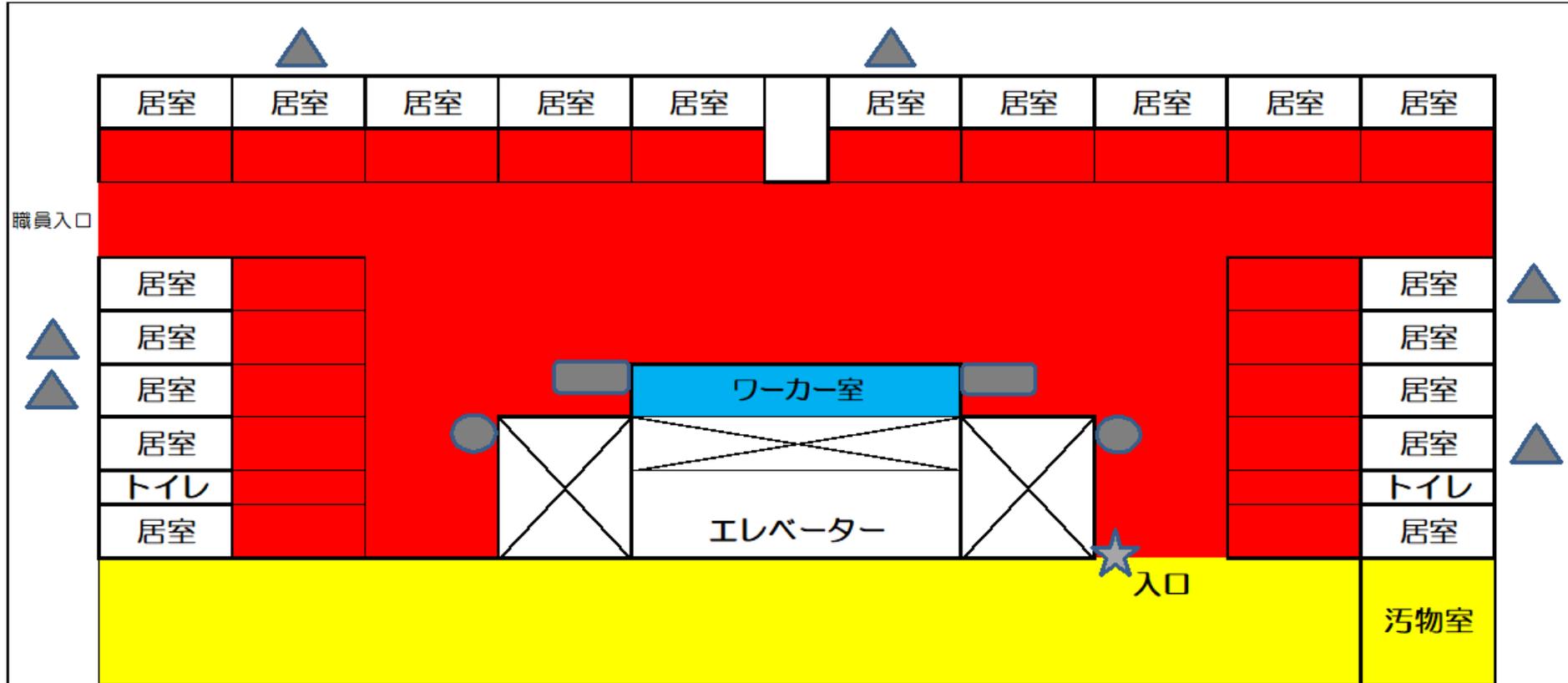
- ・ フロア内の細かいところまで取り決めが行えていなかった

共有物の廃止や、物品の配置場所、ごみの捨て方など。

実践したこと

隔離マニュアルに沿って

コロナ感染対応フロア隔離見取り図



- 清潔エリア：ワーカー室
- 準汚染エリア：エレベーター前の廊下
- 汚染エリア：各居室、フロア全体

- 図1
- 図2
- 図3
- 図4

図1

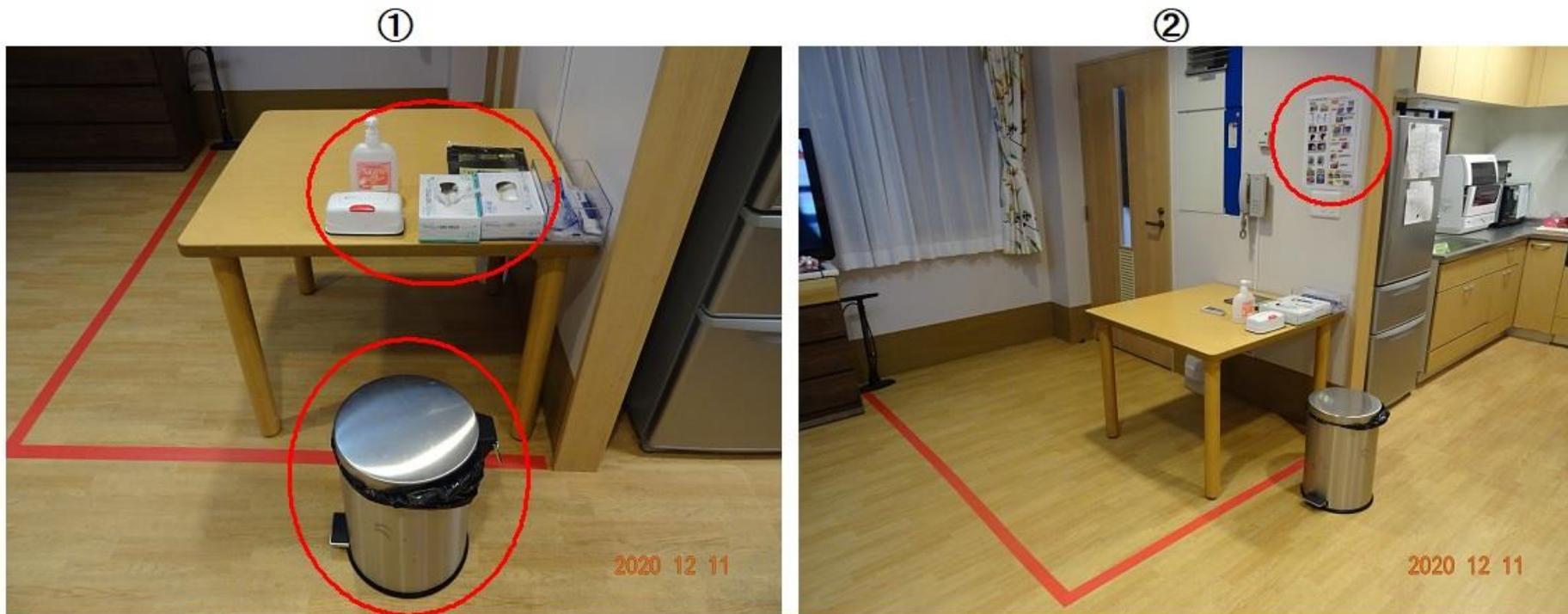


図1の場所はワーカー室入り口の2ヶ所。ワーカー室内へ入るときはここで手袋、ガウン、マスクを脱ぎ手指消毒をして入室する
また、一処置一手洗いの考えのもと介助毎にここで手指消毒をし手袋を交換する。

- ① 配置物: 手袋、手指消毒、除菌シート、黒ゴミ袋、ゴミ箱(足で蓋の空くもの)
- ② 壁面にガウンテクニクの手技を掲載。
- ③ フェイスシールドは直置きせず、下にビニールなどを敷いて汚染させないようにする。
- ④ 脱いだガウンは予め広げておいた黒のビニール袋に捨て、中の空気が出ないように口を下に向けてゴミ箱に捨てる。
- ⑤ フェイスシールド装着の場面は、食事介助、口腔ケア、清拭、排泄ケア、ベランダのごみ収集時とする。

図2



図2の場所は廊下の2ヶ所。一処置一手洗いの考えのもと介助毎に手袋の交換を行う。

オムツ交換時のガウンは、除菌シートでガウン前面を清拭し次の利用者様のオムツ交換へ充たる(詳細は下記)

① 配置物: 手袋、手指消毒、除菌シート、黒ゴミ袋、ゴミ箱(足で蓋の空くもの)

② 壁面にガウンテクニックの手技を掲載。

オムツ交換の流れ: 1、最初のオムツ交換施行→2、手指消毒し手袋を脱ぐ→3、手指消毒→4、除菌シートでガウンの前面を清拭→5、手指消毒→6、手袋装着→7、次のオムツ交換へ

図3



図3の場所はベランダ。ゾーニングのため職員は非常階段から各フロアのベランダに上り、担当フロアへ入室する。部屋から汚染物をフロア内に持ち込まないために、ベランダにゴミと衣類、リネンを収集するBOXを配置する。

- ① 職員出勤時はレッドゾーンを通るため入り口でガウン、手袋、マスクを装着しワーカー室へ向かうこと。
- ② 外に出すオムツ、リネンは袋に入れてからBOX内に置くこと。
- ③ オムツ、リネン回収時はガウン、手袋、マスクに加えフェイスシールドを装着すること。

図4



図4の場所はフロア出入口。台車に必要物品を準備しフロア内へ入室する。また、フロア内から退出する際は出口に設置してあるゴミ箱に手袋、ガウン、マスクを廃棄する。基本的には担当看護師のみの出入りとしゾーニングが崩れない様注意する。

① 必要物品: 入口は台車に、手袋、ガウン、マスク、手指消毒、除菌シートを用意する。

② 必要物品: 出口はオーバーテーブルに、手指消毒、黒ゴミ袋、足で開閉できるゴミ箱を設置しガウンテクニックのポスターを掲示する。

課題

- サーベイランスの漏れを今後どのように発見していくか。
- 当該フロアのガウンテクニックの知識と手技の維持と、他フロアへ指導を行い標準化させていくこと。
- 今回作成したマニュアルの周知。



介護職の対応について

ユニットリーダー

管野 哲也



大変だった事



職員の人数

- ・ユニット職員内で陽性者が出た時点で勤務人数の確保が難しい。
- ・夜勤対応が一人
- ・後遺症



大変だった事

- 利用者様の対応について
 - ・ ガウンテクニックやゾーニングの実践
 - ・ 入浴中止の影響
 - ・ 職員の身体的・精神的ストレス

良かった事

- ▶ 他フロアへの感染拡大を防ぐことが出来た。
- ▶ 他フロアから人員のヘルプがあり、職員数を確保することが出来た。
- ▶ 感染症に対する意識、技術が向上した。

新型コロナウイルス発生後に対応を変えたこと

- ▶ 共有物は避ける（陰部洗浄ボトル・ポット・電子レンジなど）
- ▶ 職員給食を中止し、全員自弁
- ▶ 職場内でのうがい・歯磨きは禁止
- ▶ 更衣室も密にならないよう、各階に更衣室を用意
- ▶ 感染対応ユニットは非常階段からユニットへ出入りし、他の職員と接触しないようにした
- ▶ 1日に2回、館内のアルコール消毒

新型コロナウイルス発生後に対応を変えたこと

- ▶ 排泄介助、食事介助、口腔ケア、入浴介助等利用者様と顔が近づく介助をする時はフェイスシールドを着用
- ▶ コップ等を洗うスポンジは感染の媒介になる恐れがあり廃止
- ▶ 床掃除の際はモップを使わず、クイックルワイパーを使用

上記対応は一部ですが、収束した現在も継続した対応を行っています。



厨房の対応について

管理栄養士

木村 公紀



使い捨て食器を使用

- ▶ 汚染区域から清潔区域への物品を持ち出さない
- ▶ 残菜や使い捨て食器はフロアで処理→感染性廃棄物扱い



配膳方法

- 感染ユニット内へは温冷配膳車を入れない
- 介護職員、厨房職員の作業動線が重なりを無くす
- 朝食の味噌汁の提供

配膳の様子





大変だった事・良かった事

- ▶ 食数の調整
- ▶ 新たな感染マニュアル作成

- ▶ 早期対応
- ▶ 意識の向上

まとめ（大切なこと・学んだこと）

- ・ ウイルスを持ち込まない、人にうつさない、うつされないようにすること。
- ・ 初期行動を早期に行うこと。
- ・ ガウンテクニックの周知徹底
- ・ 自分の施設にあったゾーニングの確立と周知
- ・ ウイルスの恐ろしさ
- ・ 感染に対する意識向上
- ・ チームワーク

